

その後東善寺右馬頭中山玄庵を東渡し、友人を尾浦
城の郡代より草薙備前守を山形へ返されける
叔中務家の子に配をよみて生身、新島をたし
て出家し、後ち大和玉金峯山に引籠り、初めを以て
終に千余とて没し、志願より加茂浦圓融院を
後に鶴岡に引移し、光安寺と号しけるなり

越後の中屋重長、庄内出陣之事

一 去程、庄内より東漸寺右馬頭祐直、中山玄庵朝正を
副へ、奥人尾浦城の郡代として諸事執行のなる能く
進み、奥人の執扱方私曲にて新法の沙汰多かり、諸
人南時の成敗に歸せしむ、恨むとみえ、折や、越
後五中庄重長、奥人千徳丸危死滅亡、御中要落行き
々々敗軍の意恨有る、依てこの夜密に便軍を以て、
人をかき、千徳丸旧好の士、皆に土佐林甲斐、原田佐次、
を始り、各評定して、初めは授け、中より万民の愁ひ
堪え、上杉殿慈悲の、大和と承る、早に上杉殿